

# KELES Newsletter

## 関西英語教育学会報 2010年度 第2号

事務局：〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学 国際コミュニケーションセンター 横川博一研究室内

Phone: 078-803-7689 E-mail: yokokawa@kobe-u.ac.jp

学会ホームページ: <http://keles.web.infoseek.co.jp/> 2011年1月11日発行



### 会長あいさつ

関西英語教育学会会長 吉田 信介 (関西大学)

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

このたび、会長職2期目を迎え、会員の皆様のご支援とご指導を賜り、新事務局体制のもとで関西英語教育学会のより一層の発展に尽力してまいる所存でございます。

昨年は、全国英語教育学会の開催地区学会として、全国から1000名近くの参加者を迎え、盛会のもとに研究大会を終えることができ、KELESの底力を体感することができました。これも会員および役員の皆様のご尽力の賜物と感謝申し上げます。特に、海外からの講師招請、ランチョン・セミナー、新しい形でのレセプション、蛇腹リーフレットは、いつまでも参加者の心に残るものであり、今後の大会に引き継がれていくものと確信しております。

さて、いよいよ小学校での英語必修化が始まる英語必修化元年を迎えました。既に7割以上の小学校で何らかの形で英語活動が実施されており、特に、英語活動等国際理解活動拠点校においては「既習の英語を使っての英語クイズ(あてっこ)大会」や「日本の昔話の英語劇上演」などの「人と関わる活動を通して、認め合う態度を育て、自分を表現」する活動が行われています。しかしながら一方で、英語指導に不慣れな小学校教諭が少なくなく、2年間で30時間程度の英語指導の校内研修を受けるよう文部科学省が呼びかけていますが、それでも、全国都道府県教育長協議会の報告

では、単独の英語指導について「やや不安・かなり不安」と答えた教員は83.5%にのぼった、という調査結果があります。

そのような中、北海道の小学校英語活動等国際理解活動の研究開発校における「小中高大連携」英語教育の取り組みは大いに参考になるでしょう。そこでは、(1) 小学校では、高学年の授業時間数を増加し、文字指導や中学校教員による乗入れ授業による中学校とのなめらかな接続、(2) 中学校では、高校での指導内容の一部を中学校に移行して、実践的コミュニケーション能力育成のための指導計画や評価計画の改善を行い、(3) 高校では、英語を通じて言語や文化の理解を深め、実践的コミュニケーション能力の育成のために、大学との連携と研究を進めています。

この場合、小・中・高・大学全ての校種を含む教員が一同に会して、理論と実践の両面から教育研究の情報を交換する場が提供される必要がありますが、我がKELESはもとより、親学会である全国英語教育学会、各地区学会は小中高大の教員によって運営されており、今やこれまで以上に、学会の社会的責任(ASR)と、会員の皆様へのアカウンタビリティを果たすべき時期が到来しております。

そこで、今回、横川新事務局長体制のもとで、理事会組織の新設、研究大会の開催要領の見直し、授業実践および基礎研究の基盤整備の推進、研究会活動の発足および定期刊行物発刊などの新企画を検討しており、

それらを通じて、学会活動の一層の活性化と、より活発で実りある研究活動を着実に展開してまいりる所存です。

長期にわたる不況のため、閉塞感が強く、内向き思考による海外への留学生の大幅減少が続く中、KELES

をはじめとする学会活動が、日本の英語教育を活性化し、外向き思考型の若者を世に送り出すことで、閉塞感のない社会の実現への一助となれば幸いです。

## 関西英語教育学会 2010 年度春季（第 13 回）研究大会報告

開催日：2010 年 6 月 5 日（土） 会場：京都教育大学

### ▶ 講演

英語リーディングの科学：「読めたつもり」の謎を解く

講師：卯城 祐司先生（筑波大学大学院）

再話(retelling)とは、ストーリーを読んだ後、内容を知らない人に対して、原稿を見ないでそのストーリーを知らせる活動である。卯城先生はこの再話活動について、言語技能の向上にとどまらない幅広い教育的効果・意義や、具体的に再話活動を実施する際の留意点、評価のポイントなど、多岐にわたる内容についてお話を下さった。まず再話は、シンプルかつ生徒主導的な特性を備えており、読解プロセスを考えられること、分析的思考力や独学力を養うことができる点からも、その有益性が伺えることが示された。また、実際にタスクを実施する際の留意点として、口頭型、筆記型、図式の利用など様々なバリエーションが考えられること、熟達度に応じた工夫が必要であること、モデル再話の重要性などを、授業構成例や評価方法なども交えてお話された。その上で、再話が、読み手のレベルに応じて柔軟に対応できる、自発的な言語学習活動であり、授業の幅を広げる方法の一つであるとまとめられた。

フロアからは、再話活動が比較的レベルの高い活動であり、文レベルでの正しい理解に困難があるような生徒・学生を対象にしても実施できるのか、という点が特に疑問として上がっていた。それに対するお答えは、再話に限らず、いかなるタスク（例えばスキミングや速読）を行う際にも、正しく理解できるということは前提であり、しっかりわかっている、あるいは正

しく理解できる内容・素材で実施することが重要である、というものであった。

参加者は皆、卯城先生のご講演の内容を、どうしたら自分が担当するクラスで応用・実践できるか、それぞれに思い描いているようであった。それと同時に、高校教師時代に多くの生徒のテープをチェックされていたお話や、ご自身の出版物に関するお父様との微笑ましいエピソードの度に、会場は驚きや笑いに包まれていた。内容からもお人柄からも、ぐっと惹きつけられるご講演であった。

報告者：橋本 健一（近畿大学）

### ▶ ワークショップ

小学校高学年から中学校入門期の英語指導—音声・文字・コミュニケーション活動を中心に—

講師：田縁 眞弓先生（立命館小学校・非）

本ワークショップ講師、田縁眞弓先生は、2006 年の立命館小学校開校当初より、英語活動カリキュラム作成、教員研修、子どもたちの英語指導に携わってこられ、また教育委員会や公立小学校でも英語活動指導者も務められている、小学校英語活動の第一人者である。ワークショップでは、田縁先生は毎日こんなふう子どもたちの目を輝かせているのだろうなあと、小学校の教壇に立たれているご様子を彷彿とさせるような鋭刺としたティーチャートークで、様々なアクティビティを多彩なバリエーションで実演して下さい、ふんだんなアイデアをご提供下さい。アクティビティのデモンストレーションに交え、指導目標・指導指針に則って組み立てられた指導計画・活動の流れと各活動の理念の解説を随時加えて下さい、所期の教育目標で

ある「音声や基本的な表現に慣れ親しむこと」に合致した活動になっているかと客観的に問う目、単なるゲーム的活動に終わらずしっかり聞かせる／しっかり言わせるアクティビティを構成する工夫、発達段階に適した活動が導入されているかという配慮等、欠くべからざる留意点をご指摘下さった。

「取りかかりは繰り返したり覚えたり of 擬似コミュニケーションから開始するとしても、高学年になるにつれ、ドリル的なアクティビティの中にも、意味あるやりとり（生きた情報交換）のある本来の意味でのコミュニケーション活動に移行していくこと。ある程度スキルが無ければ自分の言いたいことを伝えることはできず、言いたいことを伝えることができ初めて達

成感を得られるということを考えれば、“コミュニケーション”と“スキル”とは二律背反ではない。伝えたい／知りたい気持ちにさせることが、コミュニケーション能力の素地を養うことである」など。

田縁先生がご紹介下さった可愛らしい絵本“*I am pink.*”や、最後にご紹介されたアクティビティでのご参会の先生方による *Carpenters “Top of the World”* の美しい合唱も含め、随所に宝石が散りばめられたようなワークショップで、子どもたちの英語指導に長年携わり、英語活動を通して子どもたちの成長を見つめておいでになった田縁先生の語られるお言葉一つひとつに重みを感じながら拝聴致しました。

報告者：生馬 裕子（大阪教育大学）

## 関西英語教育学会 2010 年度夏季（第 14 回）研究大会報告

開催日：2010 年 8 月 6 日（金） 会場：関西大学

### 【第 1 室】

小学生自身が希望する学習活動について：外国語（英語）学習調査分析結果

発表者：片岡 晴美（関西大学大学院生）

2011 年度から完全実施される小学校学習指導要領第 4 章外国語活動によると、「アルファベットなどの文字や単語の取扱いについては、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いること」と規定されている。発表者は、小学校外国語活動について、小学生自身は「英語の文字を読み書きできるようになりたいのか」「どんな外国語（英語）学習をしたいのか」に焦点を当て、関西圏の公立小学校 2 校の 5、6 年生 367 名を対象に調査を行い、その結果、小学生自身が一番望んでいる学習活動は「外国語（英語）の文字（アルファベット）を、読めるようになりたい」であることなどが明らかとなったと報告された。生徒が望んでいるから、そうしたほうがいいのかという議論もあり、今後小学校で英語教育がどのように実施されるべきなのかということに一石を投じた。

\*

「友だちコレクション」をつくろう！～小学校 3 年生と 5 年生の協働学習～

発表者：四方 智子（兵庫教育大学大学院）

小学校外国語活動における「コミュニケーション能力の素地を養う」授業実践において、互恵的な学びを促すグループ活動を導入し、その学び合いの姿を、社会文化的アプローチの視点から分析した結果を発表された。実際には学習経験の差がある 5 年生と 3 年生の異学年間における協働学習を通して行い、その中で見出された学び合う子どもの姿を分析することで、協働学習の意義を検討し、5 年生、3 年生各々が、他者との関係性に促されて活動の中で英語を使っていることがデータから明らかになったと報告された。参加者からは、教室の中での協働学習についてはどうなのか、という疑問が出された。

\*

「逆向き設計」による中学生の言語活動の充実と学習意欲の向上に関する研究

発表者：高見 砂千（大阪市教育センター／大阪市立大正東中学校）・吉田 晴世（大阪教育大学）

発表者は、言語活動の充実と生徒の学習意欲の向上を目的として、「逆向き設計」の効果を明らかにしようとした。まず、評価指標表によって生徒の完成作品を評価したところ、作品の質は総じて高く、目標に対する生徒の到達度が高いことがわかった。また、質問紙調査の結果、実践した言語活動に対する生徒の評価が高く、コミュニケーション活動に関する生徒の意識と学習意欲が事後調査で著しく向上していた。さらに、より高い目標を目指したとする生徒の割合が高く、逆向き設計の方法については9割以上が肯定的な回答を示したと報告された。「英語が使える」ということはどういうことなのかという指標を持って学習に向かうということが大切だということは参考になった。

報告者：浅井 玲子（京都外国語大学大学院）

＊

#### Evaluating the validity of a word list and collocation list for engineering students with PERC corpus

発表者：古樋 直己（国立津山工業高等専門学校）

本発表では、科学技術・理工学分野の約1,700万語の学術雑誌論文から成るPERC (Professional English Research Consortium) コーパスを使用して、工学系の学生用に開発された既存のワードリストの妥当性を検証し、その作成方法を確立するという研究目的が示された。工学系の学生が、将来、技術者として論文執筆や学会発表を英語で行う機会は少なくないと思われるため、学生のうちに専門分野の英語力のある程度身に付けておくことは大変重要である。今後のご研究の発展に期待したい。

＊

弓削商船高等専門学校「専攻科英語キャンプ2009」の実践一少人数形式の夏期集中指導で英語運用能力向上を目指して—

発表者：望月 肇（国立弓削商船高等専門学校）

高等専門学校のカリキュラムには専門科目が多く、一般科目である英語の授業時間数は少ないため、英語を苦手とする学生が目立つ。しかしながら、大学院進学や就職の際には、TOEICスコアの提出等を求められるケースが急増している。本発表では、英語学習へのモチベーションと英語運用能力を高めることを目的と

した短期集中指導について報告された。両者とも大きく向上していたことが、指導後のアンケートと英語能力判定テストの結果から明らかになった。今後も、新たな教育実践の企画を立てておられるとのことで、次回のご発表を楽しみにしたい。

報告者：森下 美和（神戸学院大学）

#### 【第2室】

4 技能の養成を目指したライティング授業：ピアレビューとポスタープレゼンテーションを用いて

発表者：森下 美和（神戸学院大学）

英語専攻の大学1年生のライティング授業の中で、1年間で計5回の作文課題を、ピアレビューを経て加筆修正し、そのうち2回分の作文をもとに、前/後期に各1回ずつのポスタープレゼンテーションを行うという実践報告であった。学生の授業アンケートでも、ピアレビューとポスタープレゼンテーションに対して「良かった」と高評価であったとのことである。ライティングの授業であっても、4技能を駆使し、ピアレビューを通してお互いに学び合い、ポスタープレゼンテーションでの発表や質疑応答が効果的であることが分かる興味深いご発表であった。

＊

#### Instructor Feedback Effect on Two Aspects of Self in Japanese EFL

発表者：Jeff Smith（四天王寺大学・非、関西大学大学院）

This study examined the effect of instructor feedback, concentrating on linguistic self-confidence and self-esteem. The participants were given bi-weekly oral presentations and asked to make written scripts as a guide. The treatment group received oral and written encouraging feedback on their presentations and scripts, while the non-treatment group received no feedback to either. Results from pre- and post-treatment analyses using t-tests and effect size found there to be significant difference between encouraging feedback and self-confidence for the treatment group, with a decrease in self-confidence and self-esteem in the non-treatment participants. Implications that

length of time with an instructor may also be a factor in self-esteem and confidence were also very interesting.

\*

日本人英語学習者の読解におけるトップダウン処理とボトムアップ処理について

発表者：有本 朱里（広島女学院大学大学院生）

日本人大学1回生 81名を対象に、32項目からなる読解方略に関する質問紙法を行うとともに、英語力は

C-テストを用いて測定し、中級者と初級者に分け分析が行われた。その結果、中級者はボトムアップ処理に含まれる「語彙や文法知識」も使用しているが、トップダウン処理に含まれる「内容推測」の使用頻度がより高く、初級者は「内容推測」の使用頻度が低く、「語彙や文法知識」の使用頻度が高いことが明らかになったとのことであった。会場からもC-テストや質問項目等について様々な質問が出され、活発な議論がなされた。 報告者：泉 恵美子（京都教育大学）

## 2010 年度関西英語教育学会総会報告

開催日：2010年6月5日（土） 会場：京都教育大学

2010年度総会では、2009年度活動報告および決算報告、会計監査報告、2010年度活動計画および予算案などについて報告、提案がなされた。

### 1. 2009年度活動報告

#### ▶活動報告

2009年度の活動報告は、ニューズレター（KELES Newsletter、2010年第1号）に掲載されていますので、ご覧下さい。

#### ▶2009年度決算報告

2009年度の収入・支出は次の表のとおり。

### 2009年度関西英語教育学会決算報告

#### 収入の部

項目	決算額（円）	内 訳
前年度繰越金	2,816,445	
学会費	2,677,000	一般会員 7,000 円×302 名 学生会員 5,000 円×91 名 賛助会員 12,000 円×9 件
参加費	305,000	関西英語教育学会第 13 回研究大会、KELES セミナー、第 13 回卒論・修論研究発表セミナー
論文集販売	28,100	紀要 DVD、学会紀要 SELT、卒論・修論研究発表セミナー
その他	250	論文コピーサービス
合 計	5,826,795	

#### 支出の部

項目	予算額（円）	決算額（円）	内 訳
通信費	500,000	454,790	各種郵送代（ニューズレター、学会紀要、その他）
研究費	850,000	1,060,835	講師謝礼、作業補助謝礼（研究大会、セミナーなど）
印刷費	550,000	874,875	第 13 回卒論・修論研究発表セミナー論文集、ニューズレター、その他
会議費	150,000	34,325	会議諸経費
交通費	300,000	110,600	全国理事会旅費、幹事会旅費、その他
事務費	300,000	105,709	文具代、コピー代、用紙代、インク代、その他
全国年会費	520,000	592,000	2,000 円×296 名

雑費	50,000	0	
予備費	100,000	0	
次年度繰越金	3,006,795	2,593,661	
合 計	5,826,795	5,826,795	

## 2. 2010年度活動計画

### ▶役員体制

会長選挙の結果、吉田信介先生（関西大学）が再任された。任期は2010～2011年度の2年間。これを受けて、新役員体制を組織することとなり、各種役員は決定次第、ニュースレターおよび学会ホームページにて報告される。

また、学会活動の一層の活性化を図るため、役員組織の再編等について検討し、必要に応じて実施することとなった。

### ▶研究大会

2010年度は、春季および夏季研究大会の2回開催とし、それぞれ下記の要領で開催することが報告され、承認された。

◇関西英語教育学会 春季研究大会

日程：2010年6月5日（土）13:00～16:35

場所：京都教育大学 藤森キャンパス 大講義室 I

ワークショップ：「小学校高学年から中学校入門期の英語指導—音声・文字・コミュニケーション活動を中心に—」講師：田縁 眞弓先生（立命館大学（非））

講演：「英語リーディングの科学『読めたつもり』の謎を解く」講師：卯城 祐司先生（筑波大学大学院）

◇関西英語教育学会 夏季研究大会

日程：2010年8月6日（金）13:00～17:00

場所：関西大学 千里山キャンパス

内容：研究発表のほか、ワークショップ「『英語授業自己診断テスト』で2学期から授業改善」講師：鈴木 寿一先生（京都外国語大学）

### ▶セミナー・共催行事

下記の各種セミナーを開催することが提案され、承認された。

◇関西英語教育学会 第20回セミナー（大阪・兵庫地区）日程：2010年10月開催予定

◇関西英語教育学会 第21回セミナー（奈良・和歌山地区）日程：2010年11月開催予定

◇関西英語教育学会 第22回セミナー（京都・滋賀地区）日程：2011年1月開催予定

◇第14回卒論・修論研究発表セミナー 日程：2011年2月12日（土）、会場は未定。

### ▶広 報

学会案内パンフレットを新規に作成することが提案され、承認された。

ニュースレターは年5回発行（6月、8月、12月、2月）の予定。

### ▶学会紀要

2010年度は、学会紀要『英語教育研究』第34号を刊行することが報告された。また、学会紀要の刊行時期についての見直しについて再検討することが提案され、その原案は紀要編集委員会で作成し、評議会等での検討を経て、できるだけ早期に実施する方向で進めることが承認された。

### ▶新規事業

研究活動の活性化を諮るため、授業実践および基礎研究の基盤整備に向けて、新規事業について検討し、できるだけ早期に実施できるよう準備を進めることが提案され、承認された。

また、関西英語教育学会の会員へのサービス向上のため、従来のニュースレター等の送付に加えて、いわゆるメールマガジンの形式で、電子メールによる情報提供を行うことが提案され、承認された。提供される情報は、関西英語教育学会会員の教育・研究活動に資するものとし、学会幹事会においてその内容を管理することなどが確認された。2010年度のサービス開始を予定している。

### ▶2010年度予算案

2010年度予算案は次の表のとおり。なお、総会で出された意見にしたがい、項目設定を変更し修訂したものを記載する。

## 2010年度関西英語教育学会予算案

### 収入の部

項目	決算額 (円)	内 訳
前年度繰越金	2,593,661	
学会費	3,000,000	全国英語教育学会会費を含む
参加費	300,000	関西英語教育学会第15回研究大会、KELES セミナー、第14回卒論・修論研究発表セミナー
論文集販売	40,000	紀要DVD、学会紀要 SELT、卒論・修論研究発表セミナー
その他	15,000	寄付、利子、展示料、論文コピーサービス、その他
合 計	5,948,661	

### 支出の部

項目	前年度実績 (円)	予算額 (円)	内 訳
通信費	454,790	500,000	各種郵送代 (ニューズレター、学会紀要、その他)
研究費	1,060,835	1,150,000	講師謝礼、作業補助謝礼 (研究大会、セミナーなど)
印刷費	874,875	550,000	第13回卒論・修論研究発表セミナー論文集、ニューズレター、その他
会議費	34,325	150,000	会議諸経費
交通費	110,600	300,000	全国理事会旅費、幹事会旅費、その他
事務費	105,709	300,000	文具代、コピー代、用紙代、インク代、その他
全国年会費	592,000	600,000	2,000円×300名
雑費	0	50,000	
予備費	0	500,000	第36回全国英語教育学会運営補助
次年度繰越金	2,593,661	1,848,661	
合 計	5,826,795	5,948,661	

## 関西英語教育学会 2010年度役員紹介

任期は平成22～23年度の2年間 (\*印のついた委員の任期は平成21～22年度)。同職位内では50音順。

会 長 吉田 信介 (関西大学)	佐久 正秀 (大阪信愛女学院短期大学)
副 会 長 鈴木 寿一 (京都外国語大学)	里井 久輝 (摂南大学)
顧 問 沖原 勝昭 (京都ノートルダム女子大学)	橋本 健一 (近畿大学)
織田 稔 (元関西大学)	平井 愛 (京都精華大学)
齊藤 栄二 (京都外国語大学)	大和 知史 (神戸大学)
瀬川 俊一 (京都府立大学名誉教授)	評 議 員 赤松 信彦* (同志社大学)
宮本 英男 (元同志社大学)	門田 修平 (関西学院大)
事務局長 横川 博一 (神戸大学) (※副会長兼務)	清水 裕子 (立命館大学)
紀要編集委員長 有本 純 (関西国際大学) (※幹事兼務)	長谷 尚弥 (関西学院大学)
幹 事 泉 恵美子 (京都教育大学)	村田 純一 (神戸市外国語大学)
	簗内 智* (京都精華大学)
	横田 玲子* (神戸市外国語大学)

紀要編集委員 溝畑 保之 (大阪府立鳳高等学校)  
                  藪内 智 (京都精華大学)  
                  吉田 晴世 (大阪教育大学)

なお、退任された評議員および会計監査の先生方は以下の通りです (敬称略)。

評 議 員 赤野 一郎 (京都外国語大学)、奥田 隆一 (関西大学)、加藤 雅之 (神戸大学)、鈴木 寿一 (京都

外国語大学)、竹内 理 (関西大学)、中井 英民 (天理大学)、西本 有逸 (京都教育大学)、溝畑 保之 (大阪府立鳳高等学校)、藪内 智 (京都精華大学)、吉田 晴世 (大阪教育大学)  
会計監査 今井 裕之 (兵庫教育大学)、村田 純一 (神戸市外国語大学)

## 学会事務局からのお知らせ

### ◆学会費納入のお願い

2011 年度分の学会費の納入をお願いします。また、2009 年度および 2010 年度の学会費が未納の方は至急納入をお願いいたします。なお、第 37 回全国英語教育学会 (日程：2011 年 8 月 20 日 (土)・21 日 (日)、会場：山形大学) でご発表を予定されている方は、2011 年 2 月 28 日 (月) までに全国英語教育学会に入会し、2010 年度分の全国英語教育学会学会費の納入をお済ませ下さい。詳細は、同封の「【重要】学会費納入のお願い」をご覧ください。

### ◆セミナー開催のご案内

下記のセミナーを開催致します。詳細は別紙ご案内をご覧ください。

#### 関西英語教育学会第 22 回セミナー (奈良地区)

日 時：2011 年 1 月 29 日 (土)  
          12:45～17:20 (12:00 受付開始)

場 所 天理大学・杣之内キャンパス

テーマ「世界に繋がる英語教育」一技能習得を超えた英語教育の可能性を探る—

#### 第 14 回卒論・修論研究発表セミナー

日 時 2011 年 2 月 12 日 (土)  
          10:00～17:00 (予定)

会 場 関西国際大学・尼崎キャンパス

内 容

◇学部学生による卒業論文・大学院生による修士論文の研究発表

◇スペシャル・トーク

講 師：門田 修平 先生 (関西学院大学教授)

演 題：<私的>SLA 研究とのつきあい方

### ◆各種お問い合わせ

お問い合わせには、学会ホームページをご利用下さい。

URL: <http://keles.web.infoseek.co.jp/>

#### 会費納入・入会・退会に関するお問い合わせ

内容に応じて、学会ホームページ「会計関係お問い合わせフォーム」、「名簿関係お問い合わせフォーム」をご利用下さい。

#### 学会紀要に関するお問い合わせ

学会ホームページ「紀要関係お問い合わせフォーム」をご利用下さい。

#### その他学会全般に関するお問い合わせ

学会ホームページ「事務局お問い合わせフォーム」をご利用下さい。または、学会事務局：横川 yokokawa@kobe-u.ac.jp までご連絡下さい。